

検証・浦和電車区事件の真実 No.7

民主化闘争情報 [号外] 2008年4月16日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

第7回 「作り話」が発覚し追及がさらに激化！

他のキャンプ参加者にも追及の手が...

Y氏(当該事件被害者)はこれまで、事態を乗り切るために、キャンプに行った経緯について、参加者と口裏を合わせ、上原分会長(被告)に「JR東労組を脱退しグリーンユニオン(JR連合)に加入したH氏を、JR東労組に戻すために行った」との「作り話」で説明してきた。連続3日間・6回の職場集会在終わった2001年1月6日以降も、分会長から事件の発端となった、グリーンユニオン(JR連合)組合員らと行ったキャンプについて、しつこく事情聴取が続いた。もしやと思い、他のキャンプ参加者に様子を電話で聞いてみたところ、Y氏と同様に、それぞれJR東労組から厳しく追及を受けているようだった。そして、参加者がそれぞれ組合にしつこく事情聴取される中で、キャンプに行ったあるメンバーから、これまでの説明が「作り話」であることが発覚してしまった。

仕方なく「作り話」であったと伝える

2001年1月19日、キャンプ参加者の一人であるF氏から電話があり、「本当のことを話してよい」と言われた。しかし、すでに度重なる吊し上げで精根尽きていたY氏は、今さら「キャンプの説明は『作り話』でした」と分会に説明すれば、ますますJR東労組を怒らせ、今度こそ、どのような目に遭わされるかわからないと思い、ほとんど困り果ててしまった。しかしY氏は、他のメンバーが本当のことを話すのに、自分だけウソをつき通すことはできないと思い、1月19日の10時頃、意を決して上原分会長(被告)に電話し、「今までの話は『作り話』でした」と正直に告白した。分会長の対応は厳しく、「これは重要な問題だぞ。13時に(浦和電車区)講習室に来い！」と命じられた。Y氏は、その日は休みで自宅にいたが、仕方なく職場に行った。どうなることやら、不安でたまらなかった。

3時間にわたり徹底糾弾を受ける

Y氏が講習室に入ると、上原分会長、大潤・山田被告を含め15人位が鬼のような、今まで以上に厳しい顔をして待機していた。怯えながらY氏が席に着くと、いきなり口々に「口裏合わせをしやがって何考えてるんだ！約束も守ってないじゃないか！」などと激しく怒鳴られた。キャンプの経緯を正直に話すと、「お前はJR東労組を裏切った組織破壊者だ！」などと、約3時間にわたり繰り返し罵詈雑言を浴びせられ、吊し上げを受けた。上原分会長は机を蹴飛ばしながら、「おまえを信用した俺がバカだった」と怒鳴った。山田被告からは、「おまえの知っていることを全部言え！知っていることを全部文章にして提出しろ！それで処分を考える！」と厳しく追及された。集团的追及は16時頃にやっと終わった。

そして、Y氏に対するJR東労組組合員の態度は、この日以降、ますます厳しくなっていく。(次号に続く)